

地域の課題を「自分事」とし、地域の魅力を世界と結び付けた

蒜山ミライ会議

活動の目的

地域・行政・高校の連携を強化し、プロジェクトに参加したすべての人の、「持続可能な社会の主体的構成員」としての資質・能力を育成し、目の前にある課題を「自分事」として捉えることができる人材、ひいては中山間地域・地方都市の活性化を担うキーパーソンとなることができる人材を育成することを目的としている。

活動の内容及び経過

5月～10月上旬

・フィールドワークを通して、地域の魅力と課題を収集。

10月中旬～12月中旬

・キャンプ場まとめサイト Project と郷同料理 Project の活動開始。

・地元中学校と協働し、「茅刈り」を企画、運営。(草原景観保全、茅の商品化について考え、身近なSDGsの取り組みについて学んだ。)

1月～3月

・成果発表会と、地域との意見交換会「蒜山ミライ会議」の準備。

・大雪のため延期になった成果発表会、「蒜山ミライ会議」の開催。

・活動の振り返りとまとめ、次年度への接続。

活動の成果・効果

- ・キャンプ場まとめサイト班は、この活動を通して、地域の観光、環境客（東大名誉教授 鷲谷いづみ氏が公開講座で言及された語。環境を目的に訪れる観光客のこと）について「自分事」として捉えられるようになった。また、この成果は、真庭のイベント紹介サイト「ManiColle」に（協力いただいたキャンプ場の許可が取れ次第）掲載予定である。
- ・郷同料理班は、紛争当事国のウクライナを、「食」という文化から理解できないかと模索した。ウクライナ人女性2人ともリモートで交流し、ウクライナ料理の実際を教えてもらった。試行錯誤の末、地元食材を用いたオリジナルのピロシキを開発し、「蒜山ミライ会議」において参加者に振る舞い、好評を博した。この活動を通じて、「平和でなければ美味しいものも味わえない」と感じ、平和の大切さに改めて気づくことができた。

今後の課題と問題点

- ・「地域の未来を『自分事』として捉え、協働して『最適解』を見つける」、という地域全体の意識改革という点においては、今も発展途上にあることは否めない。「地域の



キャンプ場まとめサイト班取材中



郷同料理班 開発中



蒜山ミライ会議①



蒜山ミライ会議②

未来を担う『次世代』とは、若者だけでなくすべての地域住民です。」と、本校地卒学生は言う。その『次世代』一人ひとりが、地域の魅力と課題を意識して行動していくことが必要である。

- 代表者：永田浩史 ●所在地：真庭市蒜山上長田
- TEL：0867-66-2016
- E-MAIL：katuyama-hiruzen@pref.okayama.jp
- URL：http://hiruzen.okayama-c.ed.jp/
- 設立年：2020年 ●メンバー数：15名